

# 医療職を目指す多専攻の学生が合同で履修する「人間関係論」の課題 —学生の授業評価より—

關戸啓子, 安原由子

(徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部)

## 1. はじめに

医療従事者は、患者と良い人間関係を築くことが大切であり、「人間関係論」の授業は、看護学専攻・放射線技術科学専攻・検査技術科学専攻の学生が受講している。授業は、看護教員が担当し、将来の職業に役立つことを目的に、臨床現場を踏まえた授業内容になるよう工夫している。しかし、受講する学生の目指す専門職は異なっており、かつ学年もさまざまである。そこで、どの学生にとっても効果的な授業を工夫したいと考え、授業評価を実施したので報告する。

## 2. 「人間関係論」の授業方法

### 1) 授業の目的

人間関係の形成は、ケア及び各種専門職の連携の上で基盤となるため、医療従事者に必要な人間関係の基礎知識を修得することを目的とする。

### 2) 到達目標

- (1) 良い人間関係を形成するための、コミュニケーションの基礎を理解する。
- (2) リーダーシップについて理解する。
- (3) 社会的役割について理解する。
- (4) 役割葛藤の解決方法を理解する。
- (5) 人間関係に関する心理社会的諸理論の概要を理解する。
- (6) 面接時における望ましい対人関係のとり方を理解する。
- (7) 闘病する患者とその家族および医療従事者の人間関係を理解する。
- (8) 終末期にある患者とその家族および医療従事者の人間関係を理解する。
- (9) 家族を失った家族および医療従事者の人間関係を理解する。

### 3) 単位, 時間数, 受講学生

#### 1 単位, 15 時間

看護学専攻の開講学年は1年生(必修科目)  
放射線技術科学専攻の開講学年は2年生(選択科目)

検査技術科学専攻の開講学年は2年生(選択科目)

### 4) 授業方法

人間関係の基礎的な理論にふれながら、保健医療分野に携わる者として必要な患者や家族等の人間関係について教授している。さらに、体験的に理解できるように、ロールプレイングも取り入れて授業を行っている。数回小レポートを提出してもらい、知識の確認を行いながら進めている。

### 5) 授業計画

- (1) 導入, 授業の進め方について
- (2) コミュニケーションの基礎知識
- (3) リーダーシップについて
- (4) コミュニケーションと社会的役割
- (5) 人間関係に関する諸理論
- (6) 面接の技法: 非言語的コミュニケーション
- (7) 面接の技法: 質問方法
- (8) 面接の技法: カウンセリング的関わり
- (9) スキルトレーニング: 主張
- (10) スキルトレーニング: 質問
- (11) スキルトレーニング: 態度
- (12) 臨床の場における人間関係: 闘病する患者とその家族
- (13) 臨床の場における人間関係: 終末期にある患者とその家族
- (14) 臨床の場における人間関係: 家族を失った家族
- (15) 授業のまとめ

### 3. 「人間関係論」の工夫点

何回か授業でロールプレイングを行っている。その流れは「前半 30 分講義」⇒「前半の講義に関連したロールプレイング (20 分程度)」⇒「課題用紙の記入 (10 分程度)」⇒「課題用紙の提出」である。このロールプレイングを行うグループメンバーが、1つの専攻に偏らないようにしている。各専攻の学生が交互に着席するように、座席指定にしており、ロールプレイングのグループはこの座席によって近くの学生でグループを作るように工夫している。

授業で例を用いたり、状況を設定する場合には、担当教員の看護体験に偏らないように注意して、どの専攻にも共通する場面を用いるように配慮している。

### 4. 「人間関係論」の授業評価 (調査方法と結果)

授業評価は、授業最終日の 2011 年 7 月に無記名で実施した。学生に、研究の趣旨・協力は自由意思であること・協力の有無は成績とは無関係であること・プライバシーは守られること・研究結果は発表されることを説明した。その上で、研究協力に同意する学生は、研究協力同意欄に○を付けて提出するように依頼した。授業評価は5項目で、「思う」から「思わない」までの4段階で回答を求め、「思う」から順に4～1点を配して得点化した。

2011 年度の受講学生は、看護学専攻 1 年生 69 人、放射線技術科学専攻 2 年生 34 人、検査技術科学専攻 2 年生 16 人と 3 年生 2 人であった。

授業評価の用紙は、看護学専攻の学生 69 人に配布して、全員から提出があった。そのうち、研究に同意が得られたのは 57 人であった。放射線技術科学専攻の学生 34 人に配布して、全員から提出があった。そのうち、研究に同意が得られたのは 29 人であった。検査技術科学専攻の学生 18 人に配布して、17 人から提出があった。そのうち、研究に同意が得られたのは 14 人であった。

専攻別の平均得点は、表 1 に示すとおりであった。群間の検定には、Kruskal-Wallis 検定を用いた。

### 5. 考察

授業評価のどの項目においても、専攻による有意差はみられなかった。「将来の職業に役立つと思いますか」という設問において、検査技術科学専攻の学生の平均点が、看護学専攻の学生に比べて低い傾向 ( $p=0.08$ ) がみられた。専門職を目指す学生にとっては、将来役に立つ内容は学習意欲が高まると考えられることから、どの専攻においても、本授業が役に立つというをしっかりと伝えておく必要があると思われる。

受講学生の学年も、看護学専攻だけが 1 年生であったが、特に内容がわかりにくいという結果ではなかった。

3 専攻ともに「興味を持って受講できた」の得点が、3.5 より低かった。授業の開始時に、その日の授業内容に興味を持てるような導入方法を検討する必要があることがわかった。しかし、ほとんどの項目は 3.5 以上の得点であり、本授業方法の効果も確認することができた。

### 6. 今後の課題

今後の課題として、将来の職業に本授業が役に立つことは、これまで以上に強調する必要がある。さらに、学生が興味を持って受講できるように、授業を工夫する必要があることが示唆された。

表 1 授業評価の結果

	看護学 専攻 [n=57]	放射線 技術科 学専攻 [n=29]	検査技 術科学 専攻 [n=14]
興味を持って 受講できた	3.35 (0.61)	3.41 (0.56)	3.43 (0.50)
参加型の授業 方法は良い	3.53 (0.53)	3.52 (0.57)	3.69 (0.46)
将来の職業に 役立つ	3.58 (0.56)	3.55 (0.56)	3.21 (0.56)
受講して良か った	3.56 (0.53)	3.72 (0.45)	3.57 (0.50)
内容はわかり やすかった	3.63 (0.52)	3.79 (0.41)	3.50 (0.50)

( )内は標準偏差

群間に有意差なし (Kruskal-Wallis 検定)